

ベルデの
つきがた
グラフティ

ベルデくん



作
SのAた3う

百物語は、数人で行う怪談話で、百本の灯りをともし、ひとつの話が終わるごとにひとつの灯りを消していきます。そして、怪談を100話語り終えて100本目の灯りを消したとき、恐ろしいことがおこるといい伝えられています。

諸説あるようで、武家の肝試しとして始まったともされますが戦国時代からとも江戸時代からとも言われ、起源も不明なんだそうです。

99話で話をやめ100本目の灯りをともしたまま朝を待つというもっともらしい逸話も伝えられていますが、信じるか信じないかはあなた次第です。